

I N F O R M A T I O N

■ 附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」スケジュール

<附属博物館>

- ・『ブリキのおもちゃと昭和アンティーク・キャラクターグッズ展(仮)』
6月17日(日)～7月14日(土) ※日曜休館 (6/17のみ開館)
- ・『メディアアート展(仮)』
9月25日(火)～10月14日(日) ※月曜休館 (会期は予定)
- ・『京の人形展(仮)』
11月13日(火)～12月20日(木) ※日曜休館 (会期は予定)

<附属ギャラリー>

- ・『再制作』(短期大学部美術分野ミクストメディア2回生) ※9:00～18:00
6月10日(日) まで開催中
- ・『第5回活き粋倶楽部展』 ※10:00～18:00(最終日17:00) 月曜休館
6月26日(火)～7月8日(日)
- ・『工芸展』(染織・工芸) ※在学生 10:00～18:00(最終日17:00)
7月10日(火)～7月15日(日)
- ・『日本画3・4回生展』 ※在学生 10:00～18:00(最終日17:00)
7月17日(火)～7月22日(日)
- ・『The One Week Report』(短期大学部デザイン専攻科イラスト) ※在学生 10:00～18:00(最終日17:00)
7月24日(火)～7月29日(日)
- ・『New edge of art』 ※10:00～18:00(最終日17:00) 月曜休館
9月25日(火)～10月14日(日)

○お問い合わせは文化事業部 博物館・ギャラリー課まで
TEL.075-864-7898 (直) FAX.075-882-7770 museum@kyoto-saga.ac.jp

■ 本学教職員展覧会情報

- ・日野田崇／工芸
『Hands on Movement - Crafted Form in Dialogue』
6月16日(土)～8月26日(日)
Liljevalchs Konsthall (Stockholm／スウェーデン)
- ・黒木美希／版画
『版の方法論～京都と名古屋から～』
6月17日(日) まで開催中 海岸通りギャラリー・CASO (大阪)
- ・村上文生／版画
『村上文生個展』
7月19日(木)～8月4日(土) ギャラリープチフォルム (大阪)
- ・長谷川一郎／油画
『長谷川一郎個展』
6月18日(月)～6月30日(土) Gallery Den (大阪)
『BOX美術館6』
9月25日(火)～9月30日(日) ギャラリーはねうさぎ (京都)
- ・猪熊桂子／日本画
『猪熊桂子・来野あぢさ・松生あゆみ 日本画3人展』
7月(会期末定) 京都府立文化芸術会館 (京都)

■ 京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内

いよいよ「KSUA ART PROJECT」が始動！
京都嵯峨芸術大学公式サイトにて最新
の大学情報をご覧くださいませ。
<PC> <http://www.kyoto-saga.ac.jp>

こちらのQRコードを
使って、携帯サイトに
アクセスすることも出
来ます。



■ 大学行事予定

オープンキャンパス

本学にてオープンキャンパスを
下記の通り開催いたします。

6月17日(日) 10:00～17:00
8月3日(金)～5日(日) 10:00～16:00
9月23日(日) 10:00～16:00

あらし山びこスケジュール

本学図書館の児童書コーナー「あ
らし山びこ」設置を機会とし、近
隣の小学生や児童を対象に開催す
るイベント「あらし山びこ」。毎
回テーマを決めて、そのテーマに
まつわる絵本の読み語りや、お話
などを地域の方と交流しながら展
開します。

6月9日(土) テーマ「衣替え」
7月14日(土) テーマ「川(またまた川)」
9月8日(土) テーマ「住」
10月13日(土) テーマ「愛宕」
時間：13時30分～
場所：京都嵯峨芸術大学附属図書館 児童書コーナー

■ 大学よりお知らせ

『後宇多法皇入山700年記念
大覚寺の名宝』展が開催！

来る8月8日(水)～9月17日(月)、
『後宇多法皇入山700年記念 大
覚寺の名宝』展が開催されます。
また会期中の9月15日(土)には、
京都の佛教系大学による「第92回
大蔵会」も本学主催で、大覚寺と
同博物館で開催します。この機会
に大覚寺の名宝をご覧ください。
○『後宇多法皇入山700年記念 大覚寺の名宝』
○8月8日(水)～9月17日(月)
○京都国立博物館

京都嵯峨芸術大学広報

第 21 号
2007年6月8日発行

編集●京都嵯峨芸術大学 総務課 広報室
発行●学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学
〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859
FAX.075-881-7133
info@kyoto-saga.ac.jp

京都嵯峨芸術大学 広報

KYOTO SAGA

UNIVERSITY OF ARTS

PUBLIC RELATIONS

Contribution

自分探しの旅

京都嵯峨芸術大学 メディアデザイン学科客員教授 藤川桂介



Topics

教員・在学生の活躍

大覚寺「華道祭」で作品展示／「京都太
秦シネマフェスティバル」に本学から参
加／山下莊二郎先生が受章

学友会の活動

2007年度新入生歓迎祭

大学行事

2007年度下宿学生交流会

附属博物館・ギャラリー報告



News

2007年度予算編成基本方針・資金収支予算書

2007年度運営体制

教職員人事

第三者評価結果報告

新任教職員紹介 ほか



Information

附属博物館／附属ギャラリー
展覧会スケジュール
本学教職員展覧会情報
京都嵯峨芸術大学
公式サイトのご案内
大学行事予定
大学よりお知らせ



KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS



自分探しの旅

藤川桂介

●京都嵯峨芸術大学 メディアデザイン学科客員教授

プロフィール…1934年東京都生まれ。慶応義塾大学文学部国文学科卒業。脚本家、小説家、放送作家。これまで「ウルトラマン」をはじめ、「快獣ブースカ」「マジンガーZ」「宇宙戦艦ヤマト」「鉄人28号」「エースを狙え!」など、歴史に残る名作の脚本・制作を多数手掛けた。

今年から、「芸術学部メディアデザイン学科」の客員教授として、ものづくりの基本について、講義させて頂くことになりました。まさに客員教授の一年生です。

わたしは映像、出版界で、四十五年余も創作活動をしてきましたが、何年か前からか、にわかに若い脚本家に関して、ある問題を指摘する声を聞くようになりました。どうも基礎的な知識が希薄な上に、最低限の約束事まで無視してしまう…というよりは、まったく欠落してしまっている人が多くなっているということです。どうも彼らは、時代の変わり目に、先輩からものづくりの基礎となる知識、知恵、常識、伝統などというものを、受け渡されてきていないということが、はっきりとしてきたのです。このままでは、国際的に評価を得ているはずのアニメ界の土台も、揺らいでしまいます。脚本づくりというものは、映像作品を制作する第一歩なのですが、それが満足に出

来ないということは、映像作品にとっては、致命的なことになってしまいます。しかし昨今は基礎的な知識を蓄え、能力を研鑽するということを見捨て、ただただ目立つことだけを狙う送り手も多くなっていますし、更に昨今は、本人と仲間だけにしか通じない、趣味的な作品にのめり込んで楽しんでいるのを見たりします。業界の先達としては、実に腹立たしい限りです。

ところが受け入れ側にも、作品を正しく評価出来なくなっているという事情もあります。それらの作品を喜んでいたりする傾向にあったからです。しかしこんなことがつづいていたら、わたしたちの映像、出版界はもちろんのこと、さまざまなものづくりの場は、衰退していかざるを得なくなるでしょう。わたしは、かなり前から、こうした常道はずした風潮は、早晚後退すると確信していました。それがどうやらその時が、じわじわと忍び寄ってきているように思われます。つい最近のこと

ですが、異業種の何人もの方から、十代の若年層には、これまでと違った空気が漂い始めていると囁かれているのです。

NO.1であるよりONLY ONEであれというスローガンを曲解して、ただただ自分の主義主張を押し通そうとするものづくりをしてきた時代は、そろそろ終焉期に近づいています。仮にONLY ONEをめざす作品であっても、質的評価も求める世代がやってきているように思われるのです。

もう一度原点から出発してみる時が、来たのかもしれませんが。ちょうどそんな気持ちでいたところへ、京都嵯峨芸術大学の新しい学部へのお誘いを頂いたのです。

すでにこれまで、何回か講義をいたしました。新入生たちは、このところ巷間に広がる若者像とは違って、大変真摯で、明るく、多少の迷いはあるものの、これから研鑽を積む目標は、しっかりと見定めているように思えました。そんな彼らにわたしは、

「大学というところは、自分探しの旅をするところだ」

という言葉を贈りました。

さまざまなものが行き来する賑やかな町の通りを、現代では「巷」と言いますが、昔々人々は、「知未多（ちまた）」という字を当てて呼んでいました。

「未だ知ること多し」とは、言い得て妙だとは思いませんか。そこへ行けばさまざまな人、さまざまな出来事に出会うこともできるし、最新の情報も得ることができます。だから年齢に関係なく、人は「知未多」へ出て行って、世の中と接するというのが、大変大事な心がけであったのです。家に籠っているだけでは、時代の流れ、世間の空気と遊離してしまうし、移ろいやす

い人の心の動きも、まったく掴めないままになってしまいます。特に若者などは、「知未多」へ出て行って揉まれてくることが、大人になっていく大事な通過儀礼だったのです。可愛い子には旅をさせろというのは、こんなところから生まれた言葉ではないでしょうか。

大学生活を通して、若者たちは夢見ること追って、さまざまな「知未多」を巡り、同志と出会い、先達…先生たちと出会い、知識や知恵を吸収し、刻々と変わっていく世の中の情報を吸収しながら、さまざまな触覚で、これまでとはまったく違った方向をめざそうとする、もう一人の自分を探し出す旅をするのに似ています。きっと大学というところは、見るもの、聞くこと、試すことが、すべて新鮮で、刺激的で、期待感に満ちたところだと思います。そんな中で、いち早く自分探しに成功する者もいるでしょう。反対になかなか見つからずに苦闘する者もいるでしょう。しかし大事なものは、今は、真の自分探しの旅に出ているのだということを、決して忘れないということです。

わたしはそんな自分探しをする学生の、里程標ともなって、彼らの旅が少しでも有意義なものとなるよう、これまでの体験も織り交ぜながら、先達としての思いを、発信しつづけていこうと思っています。



脚本・制作で関わった作品群

2007年(平成19年)度 予算編成基本方針・資金収支予算書

文部科学省では、2007年（平成19年）に大学進学者と大学入学定員がほぼ同数となる、いわゆる大学全入時代が到来するとのデータを公表しています。また中央教育審議会は「我が国の高等教育の将来像」と題し、2020年（平成32年）までの中長期的計画を策定、その答申にもとづき本学園では、2006年4月にメディアデザイン学科の増設および短期大学部の定員減、芸術学部の収容定員増の申請を行い、7月28日付で認可されました。さらに大学院が完成年を迎えるな

ど、2007年度は学園創立40周年に向けて、新たなプロジェクトが始まる年度となります。

昨年の予算編成基本方針に掲げた「建学の理念のさらなる徹底と具体化のための事業展開」は、京都嵯峨野文化サロンをはじめとする文化事業への取り組みを中心とし、学内のみならず対外的にも浸透、定着してきています。「教育環境の整備を目的とした中期計画の策定」については、学園創立40周年記念事業委員室の発足によってさらに具体化をめざしていきま

すが、計画が着実に推進できるためにも学生募集の積極的展開と効率的な広報計画がますます重要となります。そのためには、組織力の強化、教職員の能力・意欲を重視した給与体系の見直し、効率的な人事配置など、体制および人的な整備が不可欠な課題です。

2007年度の予算編成にあたっては、まずキャンパスの整備、校舎改修等、学園創立40周年(2011年)をめざした諸事業に着手することを当面の目標に掲げ、そのためにもさらなる学生募集への努力によって学費および寄付金、補助金等の増収をはかっていき、また、特別な寄付募集についても企画を進めます。もちろん研究・教育のさらなる充実に配慮するとともに不急の支出の抑制、人件費の見直しなどの継続的課題にも取り組んでいきます。以上のことをふまえ、2007年（平成19年）度の予算編成基本方針を左記のように定めました。

大学報告

2007年度運営体制

2007年度の各種運営、教学、附属施設、研究機関の体制が、下記の通り編成されました。（2007年4月1日付）

執行部体制	
学長	三好郁朗 教授(重任)
芸術学部長	箱崎睦昌 教授
短期大学部長	北村正己 教授
教務部長	池田八栄子 教授
学生部長	桑田政美 教授
入試部長	増田洋 教授
文化事業部長	有岡保行 教授
総務部長	午居隆平 事務局長

教員人事

（いずれも2007年4月1日付）

【昇 任】

下記の先生が教授に昇任されました。

芸術学部造形学科	宇野和幸
----------	------

下記の先生が准教授に昇任されました。

芸術学部造形学科	日野田崇
芸術学部観光デザイン学科	藤木庸介
短期大学部美術学科	森山幸子

なお、教員組織の改訂に伴い、従来の「助教授」は「准教授」と改称されました。

【異 動】

メディアデザイン学科の新設、および工芸分野の短期大学部から芸術学部への異動により、下記の先生の所属が変更となりました。

教員異動（カッコ内は前所属）
芸術学部メディアデザイン学科 三宅章介 教授（芸術学部造形学科）
芸術学部メディアデザイン学科 松本泰章 准教授（芸術学部造形学科）
芸術学部メディアデザイン学科 江村耕市 准教授（芸術学部造形学科）
芸術学部メディアデザイン学科 倉山裕昭 講師（短期大学部美術学科）
芸術学部造形学科 池田八栄子 教授（短期大学部美術学科）
芸術学部造形学科 芦原祐子 教授（短期大学部美術学科）
芸術学部造形学科 吉水絹代 教授（短期大学部美術学科）
芸術学部造形学科 日野田崇 准教授（短期大学部美術学科）

【新規採用】

下記の先生が新規に採用されました。

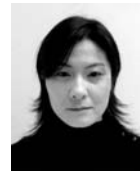
大学院 ジョー・プライス 客員教授
芸術学部メディアデザイン学科 藤川桂介 客員教授
芸術学部メディアデザイン学科 木田豊 教授
芸術学部メディアデザイン学科 下西紀子 准教授
芸術学部（講義部門） 梶村健二 教授（特別任用教員）
芸術学部（講義部門） 芳野明 准教授
短期大学部美術学科 竹中勢津子（らんこ） 准教授

職員人事

【異 動】

下記の通り、事務局の異動が実施されました。（2007年4月1日付）

事務局人事（カッコ内は前職）
教務部教務課員 寺田 裕 （入試部入試課員）
入試部入試課主任 田中 連子 （芸術文化研究所主任）
総務部広報室員 大前 智 （企画広報室員）
芸術文化研究所課長 炭山 尚賢 （芸術文化研究所研究部門課長）
文化事業部文化事業課長 博物館・ギャラリー課長 兼務 三宅 一穂 （企画広報室課長兼芸術文化研究所課長）
文化事業部文化事業課員 三上 敦子 （芸術文化研究所係長）
文化事業部文化事業課員 小川 範子 （教務部教務課員）
図書館員 丹羽 巧 （学生部キャリア支援課員）

2006年(平成18年)度 卒業式	2007年(平成19年)度 入学式	新任教職員紹介																																				
2006年度京都嵯峨芸術大学及び京都嵯峨芸術大学短期大学部卒業証書・学位記授与式、並びに修了証書授与式を本学名誉学長、大本山大覚寺新開真堂門跡猗下のご臨席のもと、2007年3月20日に執り行いました。卒業・修了者数は以下の通りです。 ○京都嵯峨芸術大学 <table><tr><td>大学院 芸術研究科</td><td>9名</td></tr><tr><td>芸術学部 造形学科</td><td>85名</td></tr><tr><td>観光デザイン学科</td><td>39名</td></tr></table> ○京都嵯峨芸術大学短期大学部 <table><tr><td>専攻科</td><td>42名</td></tr><tr><td>美術学科</td><td></td></tr><tr><td>美術分野</td><td>78名</td></tr><tr><td>デザイン分野</td><td>156名</td></tr><tr><td>計</td><td>409名</td></tr></table>	大学院 芸術研究科	9名	芸術学部 造形学科	85名	観光デザイン学科	39名	専攻科	42名	美術学科		美術分野	78名	デザイン分野	156名	計	409名	2007年度京都嵯峨芸術大学ならびに京都嵯峨芸術大学短期大学部の入学宣誓式を2007年4月2日に執り行いました。本年度入学生は以下の通りです。 ○京都嵯峨芸術大学 <table><tr><td>大学院 芸術研究科</td><td>7名</td></tr><tr><td>芸術学部 造形学科</td><td>91名</td></tr><tr><td>メディアデザイン学科</td><td>58名</td></tr><tr><td>観光デザイン学科</td><td>27名</td></tr></table> ○京都嵯峨芸術大学短期大学部 <table><tr><td>専攻科</td><td>47名</td></tr><tr><td>美術学科</td><td></td></tr><tr><td>美術分野</td><td>58名</td></tr><tr><td>デザイン分野</td><td>153名</td></tr><tr><td>計</td><td>441名</td></tr><tr><td colspan="2">(3年次編入学生16名含む)</td></tr></table>	大学院 芸術研究科	7名	芸術学部 造形学科	91名	メディアデザイン学科	58名	観光デザイン学科	27名	専攻科	47名	美術学科		美術分野	58名	デザイン分野	153名	計	441名	(3年次編入学生16名含む)		芸術学部 梶村健二 教授  4月から教職課程を担当しています。学校教育はさまざまな課題を抱えていますが、保護者、地域の方々と一緒になって目の前にいる子どものために頑張れる先生が求められています。教職はやりがいのある素晴らしい仕事です。教職の喜びと厳しさをともに学び、意欲あふれる教員としてどんどん学校現場で活躍していただけることを願っています。 芸術学部 芳野明 准教授  青森県の弘前大学を辞し、「嵯峨芸」にお世話になることになりました。前任校と授業内容にはほぼ変わらないものの、こちらは「芸大」という環境ですので、大いに張り合いを感じております。専門は西洋美術史ですが、日本美術にも大いに興味がありますので、京都という恵まれた地で教育・研究に励んでいこうと思っています。なにとぞよろしくお願い申し上げます。 芸術学部メディアデザイン学科 木田豊 教授  我々を取り巻きデジタル情報環境の便利さ、豊かさについてシステム、インターフェイス、あるいはコンテンツのデザインという観点から持続的に考えて行きたいと思っています。 芸術学部メディアデザイン学科 下西紀子 准教授  制作・研究分野は映像表現で、特に粘土や3DCGなどの立体アニメーションを専門としています。制作における自分と機械との関係から「生命と機械」をテーマとし作品を展開し、またデジタルへと表現技術を拡張するなかで、情報を「可視化」というCGの特性に関心を持ち、現在は3DCGによる古文献の世界観の再現を試みています。
大学院 芸術研究科	9名																																					
芸術学部 造形学科	85名																																					
観光デザイン学科	39名																																					
専攻科	42名																																					
美術学科																																						
美術分野	78名																																					
デザイン分野	156名																																					
計	409名																																					
大学院 芸術研究科	7名																																					
芸術学部 造形学科	91名																																					
メディアデザイン学科	58名																																					
観光デザイン学科	27名																																					
専攻科	47名																																					
美術学科																																						
美術分野	58名																																					
デザイン分野	153名																																					
計	441名																																					
(3年次編入学生16名含む)																																						
第三者評価結果報告 2006年（平成18年）度第三者評価において適格と認定されました。 学校教育法第69条の三により、2004年4月1日から大学は当該大学の教育研究、組織運営及び施設設備の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表するとともに、政令で定める期間（7年以内）ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下、「認証評価機関」という）の評価を受けることとなりました。京都嵯峨芸術大学では、大学と大学院に係る認証評価機関を財団法人日本高等教育評価機構に、また、京都嵯峨芸術大学短期大学部では、短期大学部と専攻科に係る認証評価機関を財団法人短期大学基準協会に定め、それぞれ所定の大学機関別認証評価を受け、短期大学部は2007年3月22日にすべての評価領域について「合」の評価をいただき、「適格」であるとの認定を受けました。大学は同3月29日に機構が定めるすべての基準について「基準を満たしている」との判定をいただきました。ともに期間は2006年4月1日から2013年3月31日までの7年間です。京都嵯峨芸術大学は2001年に開設した新しい大学ですが、(財)日本高等教育評価機構の評価報告書の中で、基準ごとの評価の中で、【優れた点】16、【改善すべき点】1、【参考意見】6の評価を頂きました。京都嵯峨芸術大学短期大学部は、【優れていると判断される事項】7、【向上・充実のための課題】4、【早急に改善を要すると判断する事項】0の評価を頂きました。 私たちは、今回の評価を真摯に受止め、改善すべきは改善し、また頂いた意見は、今後の大学運営の参考としつつ、さらに教育研究や組織運営、施設設備の改善を図っていきたくと考えています。大学、短期大学部の自己点検評価報告書と、各認証評価機関からの評価報告書は、本学のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。〔 本学URL → http://www.kyoto-saga.ac.jp/ 〕																																						
JUNE 2007 6																																						

TOPICS

教員・在学生の活躍

大覚寺「華道祭」で作品展示

4月13日(金)～15日(日)の3日間、大覚寺で実施される「華道祭」にあわせて本年も芸術学部と短期大学部の学生作品を賛助出品いたしました。立体作品は勅使門前の白砂の上にそれぞれ展示され、平面作品は華道学院の壁面を飾り、華やかな「華道」に彩りを添える一方、それぞれの作品が自己主張もしており、伝統と現代アートとの融合を見ることができました。

「京都太秦シネマフェスティバル」に本学から参加！

3月15日(木)～21日(水)の7日間、東映太秦映画村、松竹京都映画撮影所など、太秦界限において「京都太秦シネマフェスティバル」が開催され、本学からも坂上英彦教授と江村耕市准教授を中心として、観光デザイン学科学生、造形学科学生、短期大学部学生が参加しました。観光デザイン学科学生は、「太秦ブランド時代劇風アンテナショップ」を京福電鉄帷子ノ辻駅、太秦駅の構内で開店し、時代劇の衣装をまとい大映通りのグルメマップを配布するなど、太秦地域の玄関口を盛り上げました。また江村准教授を中心としたグループは、東映太秦映画村において「太秦戦国祭り」と題した戦国の魅力を紹介するイベントを開催し、戦国グッズ即売会や、戦国・武士のコスプレイベントを行いました。

山下荘二郎先生が受章

2007年3月で退職された山下荘二郎先生が、春の叙勲で瑞宝小綬章を受章されました。

2007年度の科学研究費補助金交付が内定

本学の佐藤文郎 准教授が代表をつとめる研究チームに、2007年(平成19年)度科学研究費補助金の交付が以下の通り内定しました。

研究種目
基盤研究（C）一般
研究テーマ
アポリネールの美術評論から見た同時代の美術上の言説およびその変容に関する研究
研究代表者
佐藤文郎（京都嵯峨芸術大学 准教授）
研究分担者
三好郁朗（京都嵯峨芸術大学 教授・学長） 伊勢晃（京都教育大学 准教授） 伊藤洋司（中央大学 准教授）
研究協力者
森田郁子（同志社大学 講師） 辻野稔哉（福島大学 講師） 大森正夫（京都嵯峨芸術大学 教授） 吉田紀子（中央大学 准教授） 佐藤典子（九州大学 講師）
交付額
247万円

学友会の活動

2007年度新入生歓迎祭

4月7日(土)、学友会主催の新入生歓迎祭が北グランドにて行われました。在学生が新入生を歓迎する温かな雰囲気の中、クラス対抗の綱引きや炊き出しなど多彩な企画を実施。小雨が降っていた関係で新入生の参加人数は100名前後でしたが、綱引きが準決勝、決勝へと進むにつれて多いに盛り上がった、楽しい歓迎祭となりました。

大学行事

2007年度下宿学生交流会

4月21日(土)、本学の地下食堂で、一人暮らしをしている新入生を対象とした下宿学生交流会を開催しました。主催は学生課ですが、食堂(不二家)の協力のもと、8名の有志の先輩学生の助けを借り、新入生40名が参加してくれました。一人暮らしに対する保健室からのアドバイスをはじめ、先輩学生が今回のために企画したゲーム、食堂のチーフとスタッフの方々による料理指導コーナー、さらに先輩への質問コーナーなど内容は盛りだくさん。パン、ケーキ、お菓子などを食べながら豊かな時間を過ごすことができた交流会でした。

附属博物館・ギャラリー報告

「収蔵品展」を開催(卒業・修了制作展優秀作品)

過去35回の制作展から、買い取り所蔵作品を中心に41作品（博物館：15、ギャラリー：22、学生ホール・有響館：各2）を展示しました。会期中は多くの在学生や卒業生が訪れてくれました。特に在学生にとっては、普段あまり目にする事のない諸先輩の在学時の作品にふれ、多くの事を学ぶ良い機会になりました。

○会期

附属博物館

2007年4月2日(月)～5月20日(日)

附属ギャラリー アートスペース嵯峨

2007年4月10日(火)～5月13日(日)